

新年度が始まりました。コモンズ・インターンシップ、三期目始動です。

明け方の気温は7度でした。日中の最高気温は19度で、やや蒸し暑く感じました。学内の桜が5分咲き程度となり、週末には満開となる勢いを感じます。しかし、お天気アプリの情報によると、明日は雨との予報で、咲き始めた「ソメイヨシノ」が少し心配です。

4月1日、平成29年度2017年度の中部大学入学式が行われました。学部入学生2,641人、編入学生13人の合計2,654人が新たに仲間となりました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さん、一人ひとりが喜びと実り多い大学生生活を送ることを願っています。中部大学の建学の精神は「不言実行。あてになる人間の育成」です。変化の激しい現代社会に生きる皆さんは、大学生活でどのような力を身につけて生きていけば良いのでしょうか。その一つが、今までの歴史でも起こらなかったような、想定外のことが急に起きたときに、自分で「考え」「判断し」「行動できる」力だといえます。まさに“人間力”でしょう。多くの先輩たちは、当コモンズセンターで、人間力を究めています。様々な経験を、そして失敗と成功を通じて、社会であてにされる人間としての価値観を培っています。新入生の皆さんにも、この人間力の獲得を期待しています。

さて、コモンズ・インターンシップも三期目を迎えました。昨年12月から募集が始まったプログラム参加学生が20名揃いました。コモンズ・インターンシップの三期目候補として1月から研修を重ね、4月1日より正式にコモンズサポーターの委嘱を受けました。これから1年間、第三期生サポーターとして、コモンズセンターの運営を中心としたコモンズ・インターンシップを通して、人間力を究めます。これに先立ち、3月31日に委嘱式を行いました。委嘱式で新サポーターに伝えた一部を、ここに記します。

委嘱式、センター長の挨拶の中でサポーターに「普通」って何かと聞きました。「普通の大学生」って言うけど、その普通は何だろうか。先日も、学生が普通では無いと面談で言っていた学生がいます。自分は普通では無いと感じている多くの学生が居るようです。現在、少子高齢化、経済のグローバル化といった社会変化が直面しており、生きづらさを感じることもあります。皆さんが生まれた頃は、まだ「地域」や「隣近所」と呼ばれる、親密で小さな共同体が機能していました。人々は地域で集まり、他にも自分と似たような人がいることを確認していたものです。しかし、この社会の変化が基となり、「普通」を確認する場が少なく(無く)なったことにより、自分は普通では無いと感じるのではないかと考えました。だからこそ、コモンズセンターは「普通」を提供する居場所でありたいと伝えました。コモンズセンターはオープンスペースです。自分と同じように、努力している学生が居ると、安心します。自分よりも少し、何かに一発懸命な学生の姿が視界に入り込んでくれば、自分ももう少し努力しようと言う気持ちになります。ことわざにも「人の振り見て我が振り直せ」という言葉もあります。そんな「普通」を確認する場がコモンズセンターの役割だと言うことを再確認してほしいと思います。皆さんが生まれた頃にあった「地域社会」をお手本にした、懐かしくも新しい場の提供を目指します。

この話をした後、コモンズサポーターで三期リーダーを務める牧野くんが、「普通がなくなっていることに深く考えさせられました」とコメントをくれました。今年度のコモンズサポーターに期待しています。

コモンズセンター長を拝命して、3年目となりました。思いを新たに、精一杯力を尽くしたいと思いますので、よろしくお願ひします。まだまだ学ぶことばかりで成長途上ですが、これからも常に感謝の気持ちを忘れずに前進していきたいと思ひます。

今年度、伊藤のテーマは、「新しい実践」です。届かない高さにある木に成ったリンゴがあるとします。このリンゴに向かって、ジャンプを繰り返しているだけでは永遠に得る事ができません。棒やイス、脚立などの道具を使うといった「新しい実践」が必要です。これまでと同じことでも、材料や方法を変えることにより、「新しい実践」を大切に、運営を行いたいと思ひています。よろしくお願ひ申し上げます。

コモンズセンター長 伊藤 守弘



委嘱状の授与



センター長からの話を聞くコモンズサポーターたち